

ポーラスウェイ（エコ） 施工手順表

施工手順説明書になります。

必要な道具を揃えて、施工時には気を付けながら施工して下さい。

必要な道具:モルタルミキサー・計量バケツ・金コテ・定木・目地材

場合によっては1輪車・スコップなども必要になります。

下地調整



下地は碎石下地を造り、不陸調整と転圧をして
接着高めるためとドライアウトの防止のため水
打ちをお勧めします。

(コンクリート下地施工不可)

(5℃以下の施工不可)

※冬期の寒い日や下地が湿っている時には散
水の必要はありません。

練り込み



骨材(7号碎石・ビリ砂利)を90kg投入します。

※7号碎石が調達できない場合は6号碎石また
は5mm～7mm程度のビリ砂利を御使用下さい。

練り込み



施工例 : 接着剤の入っていたペール缶(18kg
缶)などを使用すると計量が簡単になります。

空になったペール缶の下のくぼみで約20kgに
なります。

※骨材はしっかりと計量してください。目分量で
の投入は仕上がり時の色むらの原因になりま
す。

ポーラスウェイ施工手順表

骨材・硬化剤



骨材投入後、硬化液 0.9ℓを投入します。
1斗缶での場合は計りながら投入します。
※硬化液はしっかりと計量してください。目分量での投入は仕上がり時の色むらの原因になります。

(ポーラスウェイエコは硬化液なしです)

粉体投入



骨材と硬化液が攪拌で来たら粉袋(18 kg)を投入します。

※この時粉体が舞い上がりますのでやさしく投入してください。

加水



硬化液・粉袋が馴染んできたら水を加えていきます。

(約 4ℓ～6.5ℓ)

※骨材の濡れ具合で水の加減が調整になります。ご注意ください。

(ポーラスウェイエコの場合は加水のみです)

練り上げ



練り上がりは表面につやが出る程度が目安になります。

納豆のような硬さが目安です。

※水分量が多い場合には骨材と粉体を足して調整してください。

ポーラスウェイ施工手順表

敷均し



砕石転圧の上に練り上げた材料を敷均し、6cm厚で金コテなどを使用して仕上げていきます。ムラにならないように均一に抑えていきます。
※5℃以下 40℃以上の施工は不可となります。

塗りつけ



材料の練り上がりから硬化が早いので、早めに打設して下さい。
※固まり始めた材料は無理に使用せず下地に薄く敷いて使用して下さい。

塗り込み



目地は収縮目地や面木などを押し当て誘発目地をお勧めいたします。3m～5m 感覚で入れることをお勧めいたします。
※目地なしの場合はクラックが出ますので必ず目地を入れてください。

完成



完成後は1～2日(冬期は 3 日程)養生期間を設けてください。
夏期の炎天下のような場合は施工後 6 時間以上経過してから水打ちして下さい。
※乗用車程度であれば養生期間後に乗ることも可能です。(6cm 以上施工時)